



国家 種採用試験行政職問題講評 (専門択一試験)

LEC東京リーガルマインド
(2008年6月22日 20:00 現在)

科目	講評
政治学	1「イデオロギーと 2「議会と立法過程」については、5つの選択肢のなかで、正解肢の内容が明らかかなものであった。また、4「選挙制度」については、正解肢意外の内容が比較的容易であったため、消去法で対応可能であった。一方、3「政治過程の理論」と5「福祉国家」のテーマは国家種特有である。とりわけ、後者のテーマは近年頻繁に出題されており、この傾向がしばらく続くものと思われる。
行政学	国は「日本の行政制度・動向」+行政理論系という出題傾向からすると、今年度も例年どおりといえるが、今年度は日本の出題で「情報管理」「予算・決算」が新しく予想外であった。6「行政理論」と10「地方自治」は確実にとれるものであろう。7「行政活動への市民参加」は、肢1のパブリック・コメント手続が平成18年度以降は行政手続法を根拠としていることを知っていれば、常識的に特定非営利活動促進法を選択できたと思われる。9「情報管理」では、パスポートの電子申請や新統計法と聞きなれない肢があり驚いた人もいたであろうが、行政法履修者は素直に正解を選べたであろう。結局、雑多な学といわれる「行政学」は幅広い学習の上に成り立つということが改めて確認される本試験であった。
憲法	人権から3問、統治から2問出題された。全体的にバランスが取れた出題である。
行政法	作用法から2問、救済法から3問出題された。情報公開法・不服審査法など、条文の細かいところまで聞いている問題もあったが、消去法を使うと比較的解きやすい印象であった。国家賠償法の判例は典型的なものであったといえる。
民法	総則2問、物権3問。バランスが取れた出題である。頻出条文・判例だけでなく、細かい判例も問われているので、受験生としては難しいと感じたと思われる。ただし、すべて組み合わせ形式の出題であることから、消去法を使えば、正解にたどり着ける問題も多かった。
民法	例年通り、債権総論2問、債権各論2問、親族1問。バランスが取れた出題である。親族は、最高裁判決の文章完成問題であり、解くのにかなり時間がかかると思われる。その他の問題も、頻出条文・判例だけでなく、細かい判例も問われているので、受験生としては難しいと感じたと思われる。
ミクロ経済学	例年より、難しい計算問題が多かった。31では加重限界効用を計算することに気がつくことは困難であろう。33は計算すれば解答できるが、計算量が多く、時間がかかる問題である。35の貿易の問題は、私的財の市場の集計が問題の本質であることに気がつかないと解答が出来なかっただろう。いずれにせよ、応用力が求められた難問であったろう。
マクロ経済学	全体としては例年並の難易度であったが、39は多くの受験生にとって難問であっただろう。36、38は過去問と完全に同じ問題であり、これはかつてなかった特徴である。
財政学・経済事情	例年より出題される内容が細くなっている。実際に選択肢を切る際にはそこまでの知識は必要ないのだが、見かけ上の細かさでだまされなければ解答不可能ではない。45は時事的な問題であり、解答が困難であったろう。
経営学	例年よりやや難易度は高かった。特に49の製品ライフサイクルの問題は、問われている内容がやや細かい。ただ、選択肢を丁寧に吟味していけば、平均的な知識で対応は出来る。50で経済事情の問題が出題されたのは新傾向。もっとも、内容的には難しくはない。
国際関係	今年度出題された問題は、プロットこそそれぞれ異なるものの、ほとんどが国連をはじめとする国際機構に関する問題であった。ここ数年、国連に関する出題が減ってきていたことから考えると、少々変化があったといえるが、内容的には基礎的なものが多く、基本的な知識で十分対応できるレベルだったといえる。一方、今年度は頻出分野の国際理論に関する出題がみられなかったが、これはあくまで例外とみるべきであろう。
社会学	「社会的不平等」というプロットほか、これまでに問題のない学説・用語の出題が見られるものの、基礎的な知識で正解肢にたどり着けるレベルである。なお、昨年まで6年連続で出題され、この10年で

	頻出の分野であった「社会調査」の出題が今年は見られなかった。今後、復活の可能性はあるものの、統計学的な知識が必要なくなれば、受験生の負担は減るのではないかと予想される。
心理学	3年連続で一般心理学4題、社会心理学1題の出題であった。ただし、5題ともすべて一般教養レベルといってもいい内容であり、過去2年の問題と比較してかなり容易であった。知知ってさえいけば、迷う選択肢はどれひとつとしてないはずである。
教育学	かなり幅広く出題されている。「道德教育」に関する問題でも、教育史的な知識も必要となる。ブルームの教育評価などは教育学の問題としては定番中の定番といえ、基本的な知識で対応できる問題が多い。
英語（基礎）	内容把握3題、空欄補充2題という構成であった。文法問題は従来からの正誤問題ではなく、空欄補充となり、しかもそのうち1題は語彙力を問うものであった。文章のレベルは例年よりむずかしめであった。
英語（一般）	内容把握5題であるが、このうち1題は書き出しのついた設問で、大学入試などではおなじみだが、公務員試験ではめずらしい。こちらも難度が上がっている。

この問題講評は、LECの独自の見解として作成したものです。

この問題講評は、2008年6月22日(日)20:00現在のものです。事前の予告なしに変更される場合があります。予めご了承ください。

LEC東京リーガルマインド
LECコールセンター：0120-35-5005
携帯・PHSからは03-5913-6001
(月～金 9:30～20:00 / 土・日・祝 9:30～17:00)